



会長 小野寺 伸 浩  
幹事 及 川 昭 宏  
会報 猪 股 育 夫

例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327  
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30  
事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

## 第2751回例会 2020.9.10 No.9

### 本日の出席率

・本日の出席率 78.26%

### ニコニコボックス

- ・小野寺伸浩会長 本日欠席です。八谷郁夫P Gのスピーチに期待いたします。仙台「夢メッセ」に於いてリモートで拝聴させていただきます。
- ・及川昭宏幹事 八谷郁夫P G、スピーチよろしくお祈りいたします。
- ・八谷郁夫会員 スピーチさせていただきます。ロータリーを理解しよう。
- ・布施孝之会員 八谷郁夫P Gのスピーチ期待します。
- ・村上武彦会員 八谷郁夫会員のスピーチに期待して。
- ・飯塚仁哉会員 ミスターロータリアン、ロータリーの事は何事も精通している八谷郁夫会員のスピーチ、心して聞かせてもらいます。
- ・佐々木崇会員 八谷郁夫会員のスピーチに期待して。
- ・佐藤幸一会員 八谷郁夫会員のスピーチにご期待いたします。
- ・江川元徳会員 先週のスピーチうまくない。おわびいたします。
- ・高田次雄会員 一日の二百十日と明日の二百二十日は台風シリーズですが、東北地方は何と無く避けていただき、稲作も順調の様です。八谷郁夫会員、スピーチ勉強させて下さい。
- ・佐藤静市会員 八谷郁夫会員のスピーチ、勉強させていただきます。
- ・布施孝尚会員 八谷郁夫パストガバナーのスピーチ御期待いたします。
- ・菅原慶一会員 八谷郁夫会員のスピーチに期待して。
- ・二階堂恭子会員 今日、大先輩八谷郁夫会員のスピーチ楽しみです。よろしくお祈りいたします。

- ・千葉吉男会員以下 本日のスピーチに期待して。  
菅野幸一郎会員 佐竹孝行会員 遠藤光則会員  
猪股育夫会員 佐々木源悦会員 岩淵正彦会員  
熊谷敏明会員 高橋利光会員 富士原裕子会員  
武川毅会員 岩淵栄市会員 杉田広仁会員  
佐藤早智子会員 佐々木淳会員 千葉正宏会員  
伊藤幸子会員 後藤和人会員 及川長五郎会員  
鈴木彦衛会員  
以上、ありがとうございました。

### 会長要件 小野寺伸浩会長

9月中旬となりました。皆さんお変わりありませんでしょうか。本日は例会場に行くことができません。9月9日、10日の2日間仙台の夢メッセ宮城で「Care Tex仙台」というイベントに参加していて、仙台港付近で缶詰となっております。本日は、リモートにて会長要件を述べさせていただきます。来月10月1日の例会は伊藤ガバナーをお呼びしてのガバナー公式訪問です。今年度伊藤ガバナーは職業奉仕に力を入れることを表明されています。職業奉仕はロータリー活動の根幹と言えます。本日は、八谷郁夫パストガバナーに、改めて「ロータリーその底流」をテーマにスピーチを頂きます。私個人としても是非ともお聞きしたいスピーチだったので、リモートで拝聴したいと思います。ロータリークラブを理解する機会となることを祈念いたします。

### 幹事報告 及川昭宏幹事

- ・ボーイスカウト日本連盟より  
1. 青少年育成のためのボーイスカウト運動への支援  
2. 機関紙が届く

### 各委員会報告

- ・社会奉仕委員会 (伊藤幸子委員長)  
2週にわたって募金いたしました「ダメ・ゼッタイ」国連支援金24,500円を送金致しましたのでご報告いたします。ご協力ありがとうございました。
- ・職業奉仕委員会 (佐藤早智子委員長)  
10月8日(木)に予定しておりました職場訪問は、理事会で協議した結果中止とし、クラブ会員企業のPRを3名の方にさせていただくことになりました。希望する会員は私の方までご連絡下さい。
- ・ロータリー財団委員会 (佐藤敬喜委員長)  
各テーブルに、ロータリーに関する資料をファイルにし、置かせていただきました。ご覧下さい。
- ・環境保全委員会 (佐々木淳委員長)  
9月19日(土)は、クリーンアップ湖沼群が開催されます。多数のご参加をお願い致します。

### 今週のスピーチ

「ロータリーその底流」 八谷郁夫会員  
「寛容」はラテン語でジュリアス・シーザーの実践、紀元前に生まれた精神思想ではありますが、現代社会においても再認識しなければならない重要なことと考え、提起させていただきました。

寛容とは、本来異教を許す宗教上の態度で、転じて少数意見や反対意見の表明を許すか否かという言論の自由の問題であり、民主主義の基本原則の一つとされています。フランスのボルテールは寛容の精神をよく示すと言われる言葉を残しています。「君のいうことには反対であるが、君がそれを言う権利は死んでも守ろうと思う」これは、意見を封じてはいけません。忖度してはいけませんということです。但し、寛容には、「理性、良心、真理への信念に基づく言説」のみに適用すべきである。「民主主義を破壊」しようとする言動に適用してはならないという約束があります。自らの思想信条の為に、意図的に史実を偽造し、歴史的証拠の歪曲や改ざんを行った上で事実として提示することは社会正義上認められないことです。

第一次世界大戦後のドイツに誕生したワイマール共和国がこの限度を超えた為に悲劇の道を辿ったことは歴史的教訓です。ワイマール憲法によって君主制が廃止され共和制に、大統領内閣制へ、そして小党乱立しました。ヒンデンブルク大統領によるヒトラー首相の任命、大統領の死により大統領内閣制の廃止、ナチス=ドイツの誕生。小党乱立は一党支配になり独裁に繋がっていき、基本的人権規定の制限、権力の集中、独裁制度、「官憲国家」へと進みました。

民主政治の基本原則は、人権保障、国民主権、権力分立、法の支配です。しかし、民主主義への意志と訓練に欠け、社会に確固とした民主的土壌が存在しないと、議会制民主主義は機能不全となり、ヒトラーのような人物や独裁政治、全体主義への期待を寄せる空気が社会に生じる恐れがあるということです。公文書の

改ざん、廃棄、権力への忖度、迎合は寛容の範疇にはないということを認識しておくべきと私は考えております。

「ロータリーの誕生」  
1905年2月23日、ポール・ハリスを中心とした4人の仲間によって設立。当初の目的(定款)は、  
1. 本クラブ会員の事業上の利益の増大。  
2. 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思われる事項の推進  
一業種一会員は、競合摩擦を避ける閉鎖的・排他的・利己的親睦と相互扶助中心。

ドナルド・カーター(1906年2代目会長)は次の理由で入会を拒否しました。「貴方達はお互いに助け合って豊かになって楽しいだろう。一業一会員制の原則であれば、クラブに入れない同業者は一体どうなるのか。職業人の集まりというが、職業を持たない一般地域社会の人達は一体どうなるのか。地域社会に生まれ、地域社会に育てられ、地域社会にお世話になって暮らしていることの地域社会に、何らの恩返しもしない、何らの足跡も残さない、そのようなエゴイズムの団体は永続性がないだろう。自分は、二度とない人生を、そのようなエゴイズムの世界にこの身を置くことはできない」

これに対するポール・ハリスの反応は、「カーターの言うとおりに。クラブの在り方を変えよう」と言って、職業人の親睦のエネルギーを世のため人のために使うという考えに至り、このことが、ロータリーにおける奉仕概念導入のきっかけとなり、社会奉仕活動が始まった。他者の意見を聞き、納得すれば取り入れる寛容さを持っていた。

「社会奉仕の導入」  
目的(定款)の追加。  
3. シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める。

クラブの限界を感じ、社会貢献の項目を定款へ追加。社会奉仕の開始。当時は会員の大半が1.2の入会です。順風満帆とはいかず、社会奉仕の拡大は利己と利他の葛藤、個人的矛盾を生じさせ議論を生むことになりました。

「利他と利己の間に存在する矛盾」  
・他人のために奉仕、「超我的奉仕」  
(フランクリン・B・コリンズがテーマに掲げている)  
Service Not Self → Service Above Self  
滅私奉公、利他主義、慈善、自己犠牲の上に成りたつ。出費、時間の提供、ボランティア等で、行為の満足感(心の豊かさ)、妬み、怨みの回避。感謝される、尊敬される、社会的地位の向上。

・利己的な欲求(個人的欲望)  
自己の生長、技術の向上、利益の向上、企業の発展、ビジネスの成功、地域からの恩恵。良い生活、金持ちになりたい、もてたい、もっと飲みたい、食べたい等

矛盾する二つの行為の葛藤を和らげるための名言があります。

経営思想家ピーター・ドラッカーは「人は誇りあるものの一員たることを必要とする」と言っています。ロータリーは誇りあるものでなければならないと思っております。自国を守りたければ他国を守り、自分や家族を守りたければ、他者を守る必要があります。

フランスの思想家ジャック・アタリ氏は「利他主義は、合理的な利己主義である」と表現しています。利他は自損行為ではないのです。

当時の状況を示す例をいまひとつ紹介します。

1917年にライオンズが誕生しております。創始者のメルビン・ジョーンズが会員に呼びかけた言葉があります。「奉仕活動をロータリーのように職域や個人で行うだけでなく、集団のチームワークで行おう」です。「人は、誰かの為になることをして初めて成功したといえる」ということです。

1908年に経済学者のアーサー・F・シェルドンがロータリーに入会しております。利己と利他の調和を図る理論付けに取り組んだ方です。新しい経営学に基づく奉仕理念を提唱しております。「継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営まなければならない。ビジネスは全て社会に尽くす手段でなければならない」と言っております。彼の経営学の原理原則とは、最初に「与え」、次に「受け取り」、三番目に「保全する」であり、この三つの柱を実践することです。

シェルドンは、1911年のポーランド大会で「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というテーマを掲げております。職業奉仕の根幹となる利己と利他の調和を計るモットーを提示しました。又、取引は「買手の自己責任」ではなく、あくまでも「売手の責任」と定義しています。

「ロータリーの基本理念」（手続要覧2019年版）

ロータリーの基本理念は、手続要覧にあります。2016年以前の手続要覧は、活動の為の文字通り「手続要覧」でしたが、以降活動テクニクだけでなく基本的理念を学ぶことに内容が方向転換されました。

○社会奉仕に関する1923年の声明

1) ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕－「超我の奉仕」の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

2) 奉仕の理論が職業及び人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。

声明の理由は、利他と利己の論争の調停と終息。職業奉仕理念の確認とロータリーの社会奉仕の立ち位置を明確化しようとしたものであります。

○社会奉仕に関する1992年の声明

ロータリーの社会奉仕とは、ロータリアン一人一人の個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理想を適用することである。

この奉仕の理想を実行するに当たっては、各ロータリークラブが多彩な社会奉仕活動を開発して、多くの会員による奉仕活動に輝かしい機会を与えてきた。ロータリアンの心構えとして、また、社会奉仕活動に関するロータリーの方針を明確にするために、その原則は次のようにまとめられる。

社会奉仕は、ロータリアン一人一人が「超我の奉仕」を実証する機会である。地域に住む人々の生活の質を高め、公共のために奉仕することは、すべてのロータリアン個人にとっても、またロータリークラブにとっても献身に値することであり、社会的責務でもある。

この声明は、社会に対する手法ですが、1923年の声明が底流にあることを認識しておかなければなりません。そのために倫理道徳に沿った人格を形成し、認知されるために社会奉仕活動、広報活動参加の機会を作るべきと考えられます。

「倫理の黄金律」（他人に対する自身の態度）

利己主義（己の利益）が受け入れられる為の要素が倫理、道徳であります。即ち「企業責任」→「企業倫理」が問われるところであります。

倫理の命題である黄金律（Golden Rule）とは、宗教的戒めではありますが、全ての倫理道徳感がここに帰趨します。

・キリスト教

何事も人々からしてほしいと望むことは、人々にもその通りにせよ。（マタイによる福音書7-12）  
人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。（ルカによる福音書6-31）

・ユダヤ教

自分が嫌なことは、ほかのだれにもしてはならない。（旧約聖書統編「トビト記」4-15）

・イスラム教

あなたが人からしてもらいたいことは、全ての人に対してしなさい。（ムハンマドの言葉）

・儒教

己の欲せざるところは、他に施すことなかれ（孔子「論語」卷第八衛霊公第十五23）

・ヒンドゥー教

自分自身にとって有害だと思うことを、他人に対して決して行うべきでない。（マハーバーラタ）  
これらは、紀元前から引き継がれて来た真理です。難しく考える必要はないと考えられます。

己の職業の成功と人生の幸福

「ロータリーの哲学は奉仕の哲学、超我の奉仕」であり、これは「最も奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリーの実践的な倫理原理に基づくものであり、絶対に変えてはいけなく、変えられない一つの人生哲学です。

ロータリーは寄付団体、慈善団体ではなく、奉仕を

自らの手で実践する団体です。奉仕の機会を得られない人が奉仕を実践する人を支援するために寄付をすることは、意義あることだと思っております。

明日の金にも困っている人には、寄付をしようなどという思いは浮かびません。漠然とした経済的な不安はあるが、当面の金のある人は、「募金した方がいいのかな？」といった思いは浮かんでも、不安がある以上実行には移せません。つまり「自分にはできないことをやれと言われていて」と感じてしまい、不快感を抱き、いやだと判断してしまいます。しかし、ここで今一歩考えを進めて下さい。出来る時に出来ることをすればよいのではないかと思います。そして「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」です。職業奉仕の理念を思い出してほしいと思います。

○ロータリアンに求められること

超我の奉仕。四つのテスト。倫理。道徳。評判。

○会員としてのメリット

最も奉仕するもの、最も報われる。

様々な職業を持った会員と交流し、親睦を深めることで自分自身を切磋琢磨し、成長できます。親

睦活動への参加で友達が出来。親孝行ステータス（評価）。他人の言動、行動から何かを掴み得る機会。同じ経営者の責任や孤独を分かち合う人生の大先輩と親しくなる機会。

会費 — 法人は交際費

○退会の理由

楽しくない — 友達ができない。

費用負担が大きい。

ロータリー活動の目的は、親睦活動ではなく奉仕活動である。親睦活動を通じてお互いの仲間意識を強くする。その力を奉仕活動につなぐ。多様な会員の方向を決めるのは、クラブの活動方針がどの様になっているかであり、それはクラブ会長のリーダーシップによります。

本日のスピーチの内容は、ロータリーの本質、底流を私なりに捉え、表面だけでは理解しづらいことについて歴史経過等を踏まえながら話させていただきました。取捨選択し、皆さん自身のロータリー観を培う参考にして頂ければ幸いです。

